

第9回 まちづくりに関する提案

まちづくりのために、“まち歩きMAP・まちづくりMAP”を作ろう

〔提案の背景〕

地方都市は、人口の減少や人口の高齢化に悩まされている。さらには、ロードサイドに面した郊外の大型商業の進出により、地方都市の中心市街地の商業・文化も崩壊の危機にあるのが現状である。

この状況を少しでも打開するためには、外から人を呼び込み、地元の人達が外から来た人達とふれあう事で街を活性化して、そして、少しでも買い物をして頂き、地域商業を立て直す必要がある。

外から人を呼び込むためには、それぞれの都市の良い点を見出し、その都市や街の独自の魅力を磨く必要がある。この“観光まちづくり”ためには、行政によるハードな都市改造も必要であるが、地道な市民レベルの活動が必要とされる場所である。

現在が観光都市では無い普通の都市が、観光まちづくりを進める課題としては、①地域の人とその街の良い点に気付いていない事。また、地域商業を活性化する目的で、②観光まちづくりという視点での、地域の事業者の新しいネットワーク構築が必要である事。③観光まちづくりを実践するには、その街の課題を共有する事が可能なツールが必要である。

この市民レベルの“観光まちづくり事業”の起業の手段として、“まち歩きMAP・まちづくりMAP”の作成を提案したい。

〔現在のまち歩き地図の欠陥〕

現在、多くの都市や街で、まち歩き地図が作成され、駅の観光案内所等に設置されている。しかし、こうした観光案内地図が、始めてその街を訪れた人達にとっては、次の点で使いづらい欠点がある場合が多い。その欠点とは、①地図に方位・目印が表示されていないため、自分の現在位置が解らず、歩く方向に迷う事が多い。②地図に縮尺スケールが表示されていないために、目的地までの歩く時間の予測がつかない。③その土地にしかないオリジナリティの地域資源が、以外に見落とされている。

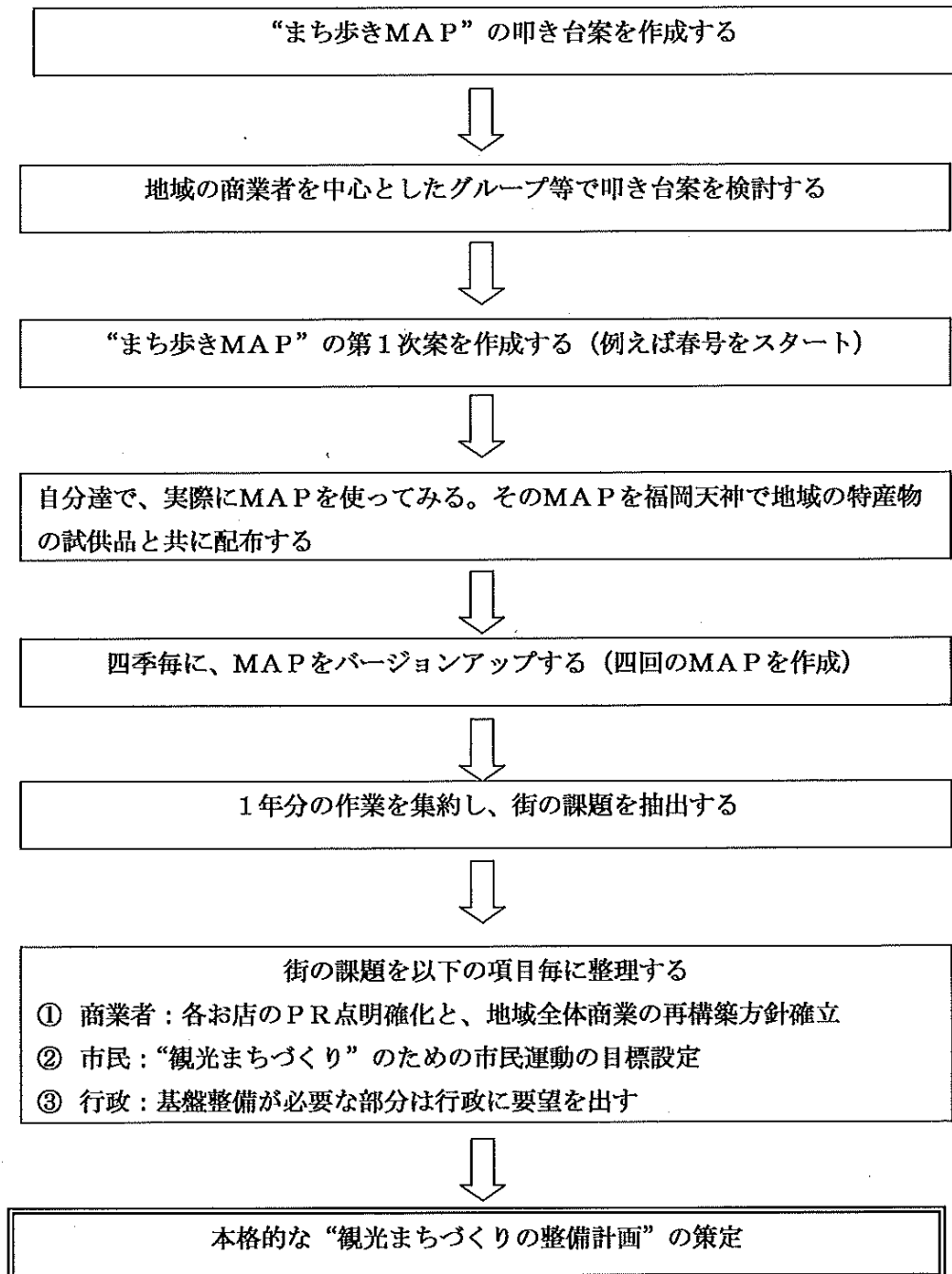
〔具体的な提案〕

上記の課題を解決するためには、観光協会作成や外部に委託して作成したマップではなく、地元住民や地元事業者自身による“手作りマップ”作成を提案する。こうしたマップ作成を通じて、自分達の街への愛着を深め、街の魅力を磨いて行く事で、地域の街づくりへと繋げる事が重要である。

〔“まち歩きMAP”から“まちづくりMAP”へ、そして、“観光まちづくり”へ〕

市民や地元事業者による、“観光まちづくり”へ発展させるための、ワークショップの行程手順をフロー図（表—1）に示す。

“観光まちづくり”のためのワークショップの行程手順をフロー

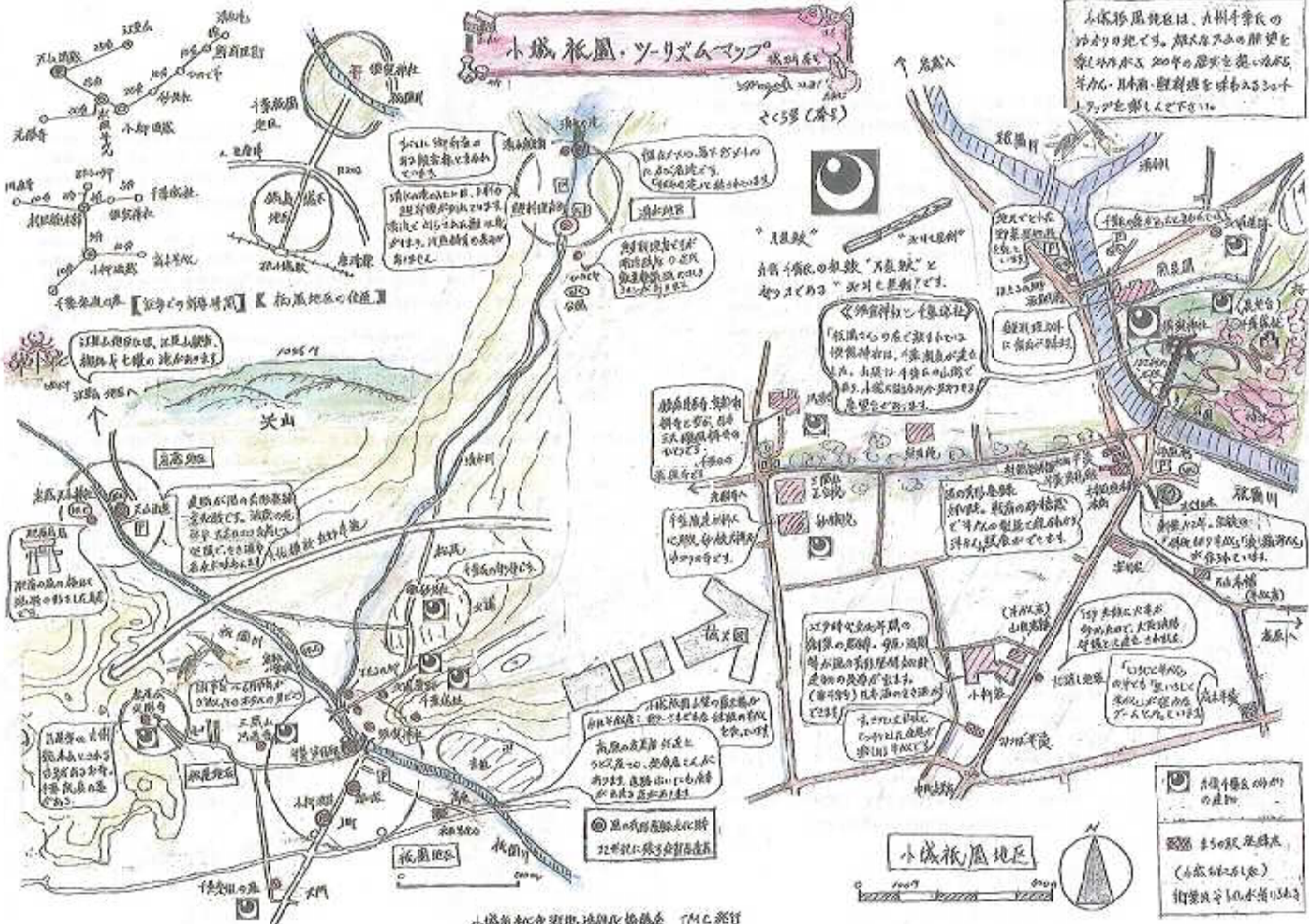


こうした“まち歩きMAP・まちづくりMAP”の実践例として、佐賀県小城市で作成した、「小城祇園ツーリングマップ」を添付します。

小城 祇園・ツリズムマップ

2015年(春)

小城祇園地区は、大洲平景氏のゆかりの地です。雄大な山々の眺望と築城の歴史が、200年の歴史を築いた小城、月夜・朝霧を味あせる200年ツリズムを楽しんで下さい。



小城平景氏ゆかりの地地図編纂 T.M.C. 発行

城下町・小城へのお誘い

小城 小城市は佐賀県のほぼ中央に位置し、福岡市からも車で約1時間の距離にあります。北には天光山脈がそびえ、南には佐賀平野が広がり、日本一の干潟・有明海に面しています。

蒙古襲来

小城の都市としての歴史は、鎌倉時代中期に博多湾に押し寄せた蒙古襲来に始まります。時の鎌倉幕府の執権北条時宗は、この亡国の危機に、幕府の御家人に九州防衛のための博多出陣を命じます。この時、最も有力な御家人であった千葉氏は、北条八代の子孫が軍を率いて、千葉から九州へ向かいます。二度目の蒙古襲来である「軍安の後」は、鎌倉武士の奮戦と台風襲来のために、蒙古軍は撃退されましたが、蒙古の再来を恐れた鎌倉幕府は、有力御家人の領地を容易に許しませんでした。



鎌倉時代中期鎌倉武士・蒙古襲来時

九州千葉氏

千葉一族の領土は、下総国から上総国までにおよぶだけでなく、肥前国からは九州肥前の肥前守も領地として賜っていました。蒙古軍が去った後に千葉氏は、やむなくこの肥前小城・城島の荘に軍を引きますが、蒙古との戦いで陣亡を喫った領民は、この時気城で埋葬します。その後を継いだのが、城島の領主である九代千葉景胤です。景胤は、この時まだ若く11歳の少年でした。頼朝・景長の九州肥前があまりにも地味に及んだために、下総国の留守を守る家臣団の下直上により、景胤は千葉への帰国を断念させられます。景胤はやむなく肥前国に下向し、九州千葉氏（肥前千葉氏）を興すこととなります。この千葉景胤が、江戸時代の幸田親兵衛（酒客ではありませんが）や長崎氏の祖となる九州千葉氏の祖です。この景胤も、肥前の地で博多千葉を創りつつ、80歳の若さで亡くなります。

祇園

肥前国小城に本格的な定住を快意した千葉氏は、九州下向の途中に、京都に立ち寄り、祇園社（八咫大神社）から分霊した神輿で、小城の地に祇園社（現頼朝神社）を創建し、その下に流れる川を祇園川と名づけます。こうして、都市の礎を固めた上で、景胤の後を継いだ千葉景胤は千葉城を築き、肥前川沿いに城下町を作り、多くの寺社を建立します。小城の都市としての歴史はこうして始まりました。

小城鍋島藩

江戸時代になると、小城は鍋島支藩となり、2代目藩主の鍋島直茂は、今の小城公園一帯に館を築き、小城鍋島藩七万三千石の新しい城下町としての形を整えていきます。



小城城下町概観

天山

標高1,045mの天山は、青銅山東南西端に位置する霊山です。この山系は、玄海灘に対する位置からして、古代の頃は、海を渡って来る外敵から九州の奥地を守る天徳の要害であったでしょう。日本の古代の宮市は、「山背城」を御り所として都市を築いています。千葉氏が、この天山のふもとに城を築き、城下町を作ったのは、そんな古来の日本人の自然感・領土感に基づいている事を感じさせます。天山山脈のふもとには、奈良時代に創設された円通寺、平安時代創設の宝徳院や、千葉氏時代の光徳寺・宗賢神社、徳川時代の高徳寺等の多くの古い神社仏閣があります。



徳川時代創建の三日月寺の多宝塔と鐘門

水脈

天山の水脈がほとばしっている清水の滝一帯の道では、涼しい水景観が満ち溢れています。天山のふもとで味わえる、庭料理や天山煎茶・小城酒造のお酒は、この天山のふちの水のおかげだと言えます。



清らかな水が流れる清水の滝

羊羹

小城市内には、25軒もの羊羹のお店があり、それぞれのお店で微妙に味が異なります。この「小城羊羹」は、明治初期に製造が始まりました。滑らかな水で作られた、よく上かな小城羊羹を、どうかお召し上がり下さい。（日産約1000個・全量3000個）



三日月寺工場の羊羹

四季

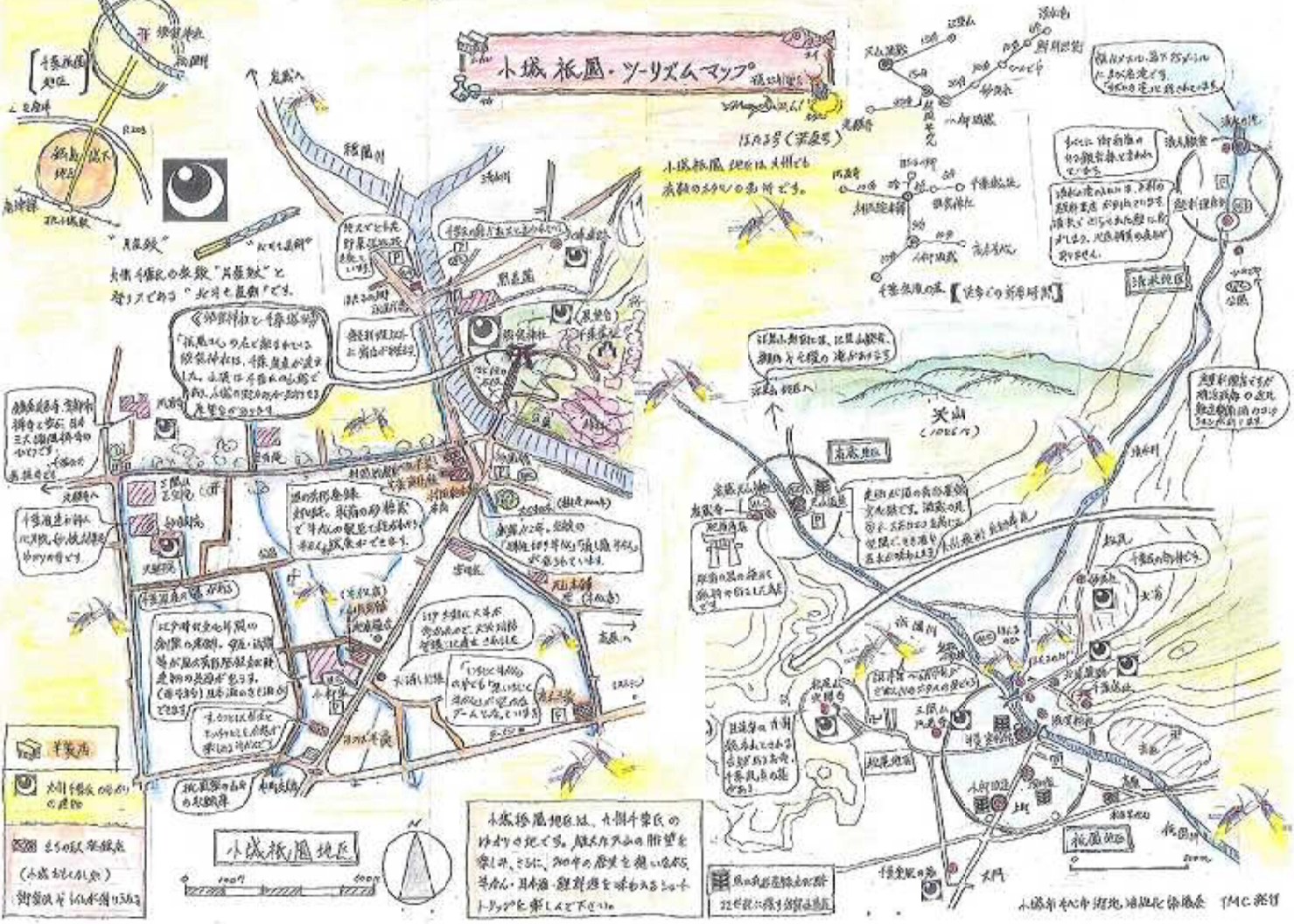
小城の四季は、深い自然と歴史のなかで、その時々を愛賞を見せます。早春の牛車持林の朝、春の小城公園の桜、夏の約700年の伝統がある頼朝神社での「山陰伏魔祭り」、秋の江見山園田の彼岸花、冬には、頼朝の首に伝わる大蛇伝説を題材にした「三日月寺三立立」の行事と、小城は四季の表情に富んでいます。

ルネッサンス

小城市は平成17年の町村合併で、三日月町・牛車持町・戸川町と一緒となり、新生小城市の市域は出小波羅の城域とほぼ同一となりました。この合併を機に、新生小城市は都市の深い歴史を在りして、新しい街づくりに向けて歩み出しています。これが、「小城・城下町ルネッサンス計画」です。

小城は、天山山脈の深い自然に恵まれ、天山山脈から湧き出した清らかな水が、勢いいたる所に流れる、約700年の歴史のある街です。是非、この早春の一日を、城下町・小城に訪れて頂くように、お願い致します。

小城祇園・ツリズムマップ



小城祇園地区は、大槻村農民の
 神守の地です。鎌倉・天山の階層を
 築き、550級の層状を築いた550
 号の、其の地、建物を味方と550号
 1-3号に築くL&Tビル

小城町中心地、地味化保護区 TMC 発行

域下町・小城へのお誘い

小城 小城市は佐賀県のほぼ中央に位置し、福岡市から車で約1時間の距離にあります。北には天山山脈がそびえ、南には佐賀平野が広がります。日本の千歳・有明海に面しています。



蒙古襲来

小城の都市としての歴史は、鎌倉時代中期に博多湾に押し寄せた蒙古襲来に遡ります。時の鎌倉幕府の鎮西七郎時宗は、この土地の危機に、幕府の御家人に九州防衛のための博多出陣を命じます。この時、最も有力な御家人であった千葉氏は、室町八代の千葉朝満が大坂を率いて、千葉から九州へ向かいました。二度目の蒙古襲来である「弘安の役」は、鎌倉武士の奮戦と自衛隊のために、蒙古軍は撃退されましたが、蒙古の再来を恐れた鎌倉幕府は、有力御家人の権力を弱体化に努めました。



室町八代 千葉朝満の肖像画

九州千葉氏

千葉一族の祖上は、下総国から上総国までにおよぶだけで無く、御家領からは九州防衛の要衝の地も領地として開いていました。蒙古軍が去った後に千葉朝満は、やむなく、この肥前小城・唐館の地に其を築きますが、蒙古との戦いで陣中死した朝満は、この精進僧で葬られます。その後を継いだのが、朝満の嫡男である九州千葉朝満です。朝満は、この時まだ若く11歳の少年でした。朝満・朝満の九州防衛があまりにも果敢に及んだために、下総国の留守を守る家臣団の下支上により、朝満は千葉への帰国を断念させられます。朝満はやむなく肥前国に下向し、九州千葉氏（肥前千葉氏）を開くこととなります。この千葉朝満が、江戸時代の名家朝満氏（直承ではありませぬ）や長崎氏の祖となる九州千葉氏の開祖です。この朝満も、肥前の空で故郷千葉を想いつつ、30歳の若さで亡くなります。

祇園

肥前国小城に本格的な庶民を代表した千葉氏は、九州下向の途中に、京都に立ち寄り、祇園社（第八坂神社）から分派した神事です。小城の地に祇園社（肥前祇園社）を創建し、その下に流れる川を祇園川と名づけます。こうして、都市の礎を築き、茶屋の能を興い、千歳祭は千葉流を継ぎ、祇園川沿いに域下町を作り、多くの寺社を建立します。小城の都市としての歴史はこうして始まりました。

小城鍋島藩

江戸時代になると、小城は鍋島支藩となり、2代目藩主の鍋島直正は、今の小城公園一帯に城を築き、小城鍋島藩七万三千石の新しい域下町としての形を整えています。



小城藩江戸時代

天山

最高1,040mの天山は、肥前山脈南端に位置する聖山です。この山系は、玄海郷に面する位置からして、古代の頃は、海を渡って来る外敵から九州の長門を守る天然の要害であったでしょう。日本の古代の都市は、「山守郷」を築り所として都市を築いていきます。千葉氏が、この天山のふもとに城を築き、域下町を築いたのは、そんな古来の日本人の自然崇拝・都市崇拝に基づいている事を感じさせます。天山山脈のふもとには、鎌倉時代に創建された日蓮宗で、平安時代創始の坐禅宗や、千葉氏時代の元勝寺・聖賢神社、朝高氏時代の皇太后等の多くの古い寺社仏閣があります。



肥前国小城の天山山脈の山頂に立つ天山神社の本堂

水脈

天山の水脈がほとぼしている清流の第一陣の谷では、素晴らしい水景が演出されています。天山のふもとで眺められる。肥前国天山山脈・小城山脈のお話。この天山のふもとの水がながれがとれます。



天山山脈のふもとに流れる清流

羊羹

小城市内には、30何もの羊羹の産地があり、それぞれのお店が独特の味があります。この「小城羊羹」は、明治初期に創業が始まりました。清らかな水で作られた、ふくよかな小城羊羹を、どうかお楽しみください。【日蓮新聞：全国お菓子見聞記】

四季

小城の四季は、深い自然と歴史のなかで、その時々を表現しています。早乙女の舞の舞の舞、春の小城公園の桜、夏の約100年の伝説がある御家神社での「山姥面談祭り」、秋の紅葉の舞の舞、冬には、肥前川の水に浮かぶ人形紙を舞い楽しむ「二月月夜王将位」の行事と、小城は四季の表情に富んでいます。



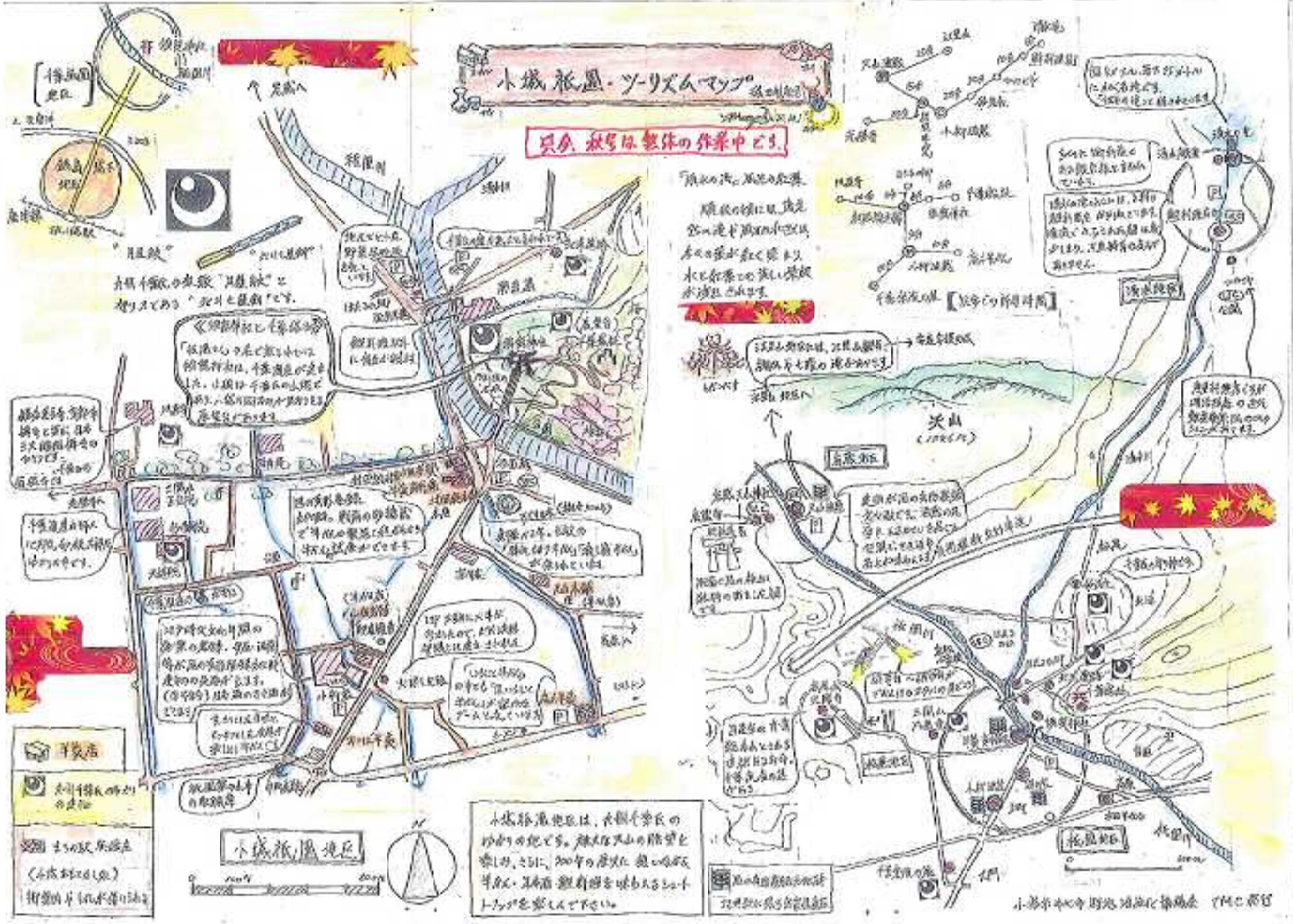
ルネッサンス

小城町は平成17年の町村合併で、三日月町・牛神町・アノ町と一体となり、新生小城市の市域は旧小城藩の領域とほぼ同一となりました。この合併を機に、新生小城市は都市の新しい歴史を生み出し、新しい街づくりに向けて歩みを進めています。これが、「小城・域下町ルネッサンス計画」です。

小城は、天山山脈の深い自然に恵まれ、天山山脈から湧き出した清らかな水が、新のいたる所に流れる、約700年の歴史のある街です。是非、この若葉の一日を、ほたる舞う域下町・小城に訪れて頂くように、お願い致します。

小城旅圖・ツーリズムマップ

只今、秋は全体の作業中です！



小城の歴史

小城の歴史

小城の歴史

小城の歴史

小城の歴史

小城の歴史

小城の歴史

小城の歴史

小城の歴史

小城の歴史

小城の歴史

小城の歴史

小城の歴史

小城の歴史

小城の歴史

小城旅図は、本町会館の
ゆかりの地です。城の歴史と
文化、200年の歴史と
文化、そして、観光地
としての魅力を伝える
ために作成されています。

小城市観光協会 観光課 作成

城下町・小城へのお誘い

小城

小城市は佐賀県のほぼ中央に位置し、筑前市から車で約1時間の距離にあります。北には天山山脈がそびえ、南には佐賀平野が広がり、日本一の干潟・有明海に面しています。

蒙古襲来

小城の都市としての歴史は、鎌倉時代中期に博多港に押し寄せた蒙古襲来に端を発します。時の鎌倉幕府の執権北条時宗は、この亡国の危機に、幕府の御家人に九州防衛のための持参山陣を命じます。この時、最も力強い御家人であった千葉氏は、宗家人代の子孫伝説が大冒険を繰り返して、千葉から九州へ向かいます。二度目の蒙古襲来である「弘安の役」は、鎌倉武士の奇襲と台風襲来のために、蒙古軍は撃退されますが、蒙古の再来を恐れた鎌倉幕府は、有力御家人の帰国を容易に許さませんでした。



蒙古襲来と戦った御家人上、鎌倉幕府の御家人

九州千葉氏

千葉一族の根拠地は、下総国から上総国までにおよぶだけで無く、筑前国からは八幡肥前の諸侯の荘も領地として領していました。蒙古軍が来た後に千葉氏は、やむなく、この肥前小浜・稲佐の地に陣を引きますが、蒙古との戦いで援手を受けた頼朝は、この地を城で包摂します。その後を継いだのが、頼朝の嫡男である九代千葉義隆です。義隆は、この時まだ若く11歳の少年でした。頼朝・義隆の九州経営があまりにも長期に及んだために、下総国の守りを守る家臣団の下意上により、義隆は千葉への帰国を断念させられます。義隆はやむなく肥前国に下向し、九州千葉氏（豊後千葉氏）を興すこととなります。この千葉義隆が、江戸時代の名將徳川氏（直系ではありません）や安徳元帥の祖となる九州千葉氏の始祖です。この宗廟も、肥前の地で故郷千葉を想いつつ、30歳の若さで亡くなります。

祇園

肥前小浜に本格的な定住を決定した千葉氏は、九州下向の途中に、京都に立ち寄り、祇園社（現八坂神社）から分霊した神輿で、小城の地に祇園社（豊後祇園社）を創建し、その下に流れる川を祇園川と名づけます。こうして、都市の礎を築いた上で、宗廟の受を継いだ千葉義隆は千葉城を築き、祇園川沿いに城下町を作り、多くの寺社を建立します。小城の歴史としての歴史はこうして始まりました。

小城鍋島藩

江戸時代になると、小城は藩の支藩となり、3代目藩主の鍋島直茂は、今の小城公園一帯に居を築き、小城鍋島藩七万三千石の新しい城下町としての形を築いていきます。



小城藩の城下町

天山

標高1,046Mの天山は、筑前山脈南端部に位置する名山です。この山系は、北西側に対する位置からして、古代の頃は、海を渡って来る外敵から九州の各地を守る大務の要所であったのでしょうか。日本の古代の都市は、「山背嶺」を拠り所として都市を築いています。千葉氏が、この天山のふもとに城を築き、城下町を作ったのは、そんな古来の日本人の自然感・都市感に基づいている事を感じさせます。天山山脈のふもとには、真鳥羽時代に創建された円通寺、平安時代創建の宝地院や、下京時代時代の火葬寺・須賀神社、徳川氏時代の豊後寺等の多くの古い神社仏閣があります。



天山山脈のふもとに位置する円通寺の境内と宝地院

水脈

天山の水脈がほとばしっている宮水の高・土曜の滝では、素晴らしい水景観が演出されています。天山のふもとで眺められる、蓮井池や天山温泉・小浜新湯のお湯は、この天山の恵みの水のおかげだと言えます。



天山の山頂から見た小城の街

羊羹

小城市内には、25軒もの羊羹のお店があり、それぞれの個性で美味に仕上がっています。この「小城羊羹」は、明治初頭に製造が始まりました。清らかな水で作られた、ふくよかな小城羊羹を、どうかお召し上がり下さい。（日経新聞：全国羊羹子2000人選）

四季

小城の四季は、深い自然と歴史のなかで、その時々の特徴を見えます。早春の牛馬御祭の節、春の小城祭の節、夏の約700年の伝説がある須賀神社での「山鹿狐祭り」、秋の江里山園田の彼岸祭、冬には、藩政の礎に伝わる大蛇伝説を思い起こす「三日月夜立」の行事と、小城は四季の美事に溢れています。



ルネッサンス

小城町は平成17年の町村合併で、二日町・牛瀬町・丹波町と一体となり、新たな小城市の市域は旧小城藩の領域とはほぼ同一となりました。この合併を機に、新たな小城市は都市の深い歴史を生かして、新しい街づくりに向けて歩み出しています。これが、「小城・城下町ルネッサンス計画」です。

二日町・牛瀬町の合併

小城は、天山山脈の深い自然に抱かれ、天山山脈から源を発した清らかな水が、街のいたる所に流れる。約700年の歴史のある街です。是非、この初夏の一日を、ほたる舞う城下町・小城に訪れて頂くように、お願い致します。